

**印西市教育ビジョン(案)
市民意見公募手続(パブリックコメント)の結果**

件名	印西市教育ビジョン(案)
募集期間	令和7年12月23日(火)～令和8年1月15日(木)

意見の提出	58件(28人)		
意見の取扱い	取扱い区分		件数(件)
	修正	案を修正するもの	0
	記載済み	既に案に盛り込んでいるもの	13
	参考	案には反映しないが今後の取り組みの参考とするもの	18
	その他	案には反映しないが意見として伺ったもの 別の計画や取り組みの中で参考とするもの	27

印西市教育ビジョン（案）に対する市民意見公募での意見及び対応

- ◆ お寄せいただいたご意見は、原則として原文のまま掲載しておりますが、個人を特定する表現等について、ご意見の趣旨を損なわない程度に修正している場合があります。

意見番号	意見の内容	意見への対応
1	<p>支援級に通う子どもの小学校の付き添い登校と、1日のうちの2時間程度ですが1学期と少し付き添い授業をしていました。支援級や先生(補助の先生)がもう少しいけば良いなと思う場面がありました。</p> <p>人が少ないと頼りたくても、頼るのが申し訳ない気持ちになり、頼れません。先生方は忙しいです。知り合いの先生は給食は飲み物と言っていました。せめて先生がしなくてもどうにかなる雑務をしてくれる時短のフリーの先生がいるとよいのではないのでしょうか。それに加えて、支援員の先生ももっといいと思います。地域の小学校では、特別支援に詳しい先生はそれほどいないように思います。(支援員の先生は詳しいです。)特別支援について、もう少し知っていて欲しいと思います。先生全員が知っていても損のない情報だと思います。</p> <p>私が小さい頃に比べて、たくさん良い方にアップデートされていると感じますが、まだまだ世の中の流れに制度が追いついてないように思います。これは国全体の体制の問題なので、簡単にどうにかならないと先生方も感じています。</p> <p>よくある意見だと思いますが、実際学校に行って先生と話したり、肌で感じました。先生方が楽しく過ごせる環境ができると、子供達ももっと楽しく過ごせると思います。よろしくをお願いします。</p> <p>あと、児童発達支援、放課後等デイサービスの所得制限をやめて欲しいです。払うのは良いのです。所得制限ない人との差額が大きいのです。市ではなく、国の問題だと思いますが、不公平を感じています。</p> <p>教育委員会と障害福祉課はもう少し繋がりを強化してもよいと思います。</p>	<p>「特別支援教育」について 意見の取り扱い【記載済み】</p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P12 人員体制の強化）。</p> <p>現在、市独自の人材バンクを開設して人材確保を進めており、今後適切な人員配置を行って、学級担任と児童にとってより良い環境が整えられるよう努めてまいります。</p> <p>「特別支援教育の質の向上（教職員研修）」について 意見の取り扱い【記載済み】</p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P13 教職員の専門性向上）。</p> <p>特別支援教育の質の向上のため、学校の教職員全体で研修を行うことの重要性につきまして認識しております。そのため、担当者を対象とした研修に加え、各小中学校における校内研修会や授業研究会に全教員が参加し、理論研修および事例研修を実施しているところでございます。今後、児童生徒の状況や教員からの要望をもとに、実情に即した研修になるよう、指導支援してまいります。</p>

		<p>「<u>児童発達支援・放課後等デイサービス</u>」について <u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。趣旨は関係部局と共有させていただきます。関係部局と連携し、教育ビジョンの実現に向け取り組んでまいります。</p>
2	<p>タウンミーティング、YouTube によるアーカイブ配信は周知の方法として、とても良かったです。ありがとうございます。</p> <p>01) 教職員の負担軽減のために、保護者が活躍すべきと思うが、PTA・父母の会活動が保護者の負担軽減方向に動いている昨今、申し訳ない気持ちでいっぱいです。 学校ごとの困りごと、手伝って欲しいところを具体的に声を挙げてもらい、月一回程、保護者や地域からのボランティアの日を作り、その日集まった人でやれる事をやってみるなど、保護者や地域の人を定期的に巻き込む仕組みを作る。主導は学校ではなく、集まる人で回してもらえばいい。</p> <p>02) デジタル化は、時代の流れから避けられないもので、便利に賢く使えるようトレーニングは必要。しかし、若い世代の発達や脳への影響などがおおいに心配。どうか、この辺りは諸外国の取り組み方の事例などもよく考慮して、先を焦らず慎重に慎重にすすめていただきたい。</p> <p>03) 地域の活用としては、印西のこの恵まれた自然環境を味方に、大いに生かしてほしいです。 耕作放棄地で、地域の方と一緒にお米作りをしたり、自然保全活動を一緒に取り組んだり。今、印西市が置かれている現状を知りどうしたら、今の農家さんの現状を守っていけるか、一緒に考えるところも、授業やクラブ活動として取り組むことができたら一石何鳥にもなると思う。（人材をどうするかが大問題ですが） アフタースクールに関して。 共働き家庭には、良いかもしれません。ですが、子育てを、より人任せにしていという意識が強くなるのではないかと心配になる。</p>	<p>「01)教員の負担軽減」について <u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P26 学校と地域による共同体制の整備）。 今年度より、試験的にコミュニティ・スクールの導入が開始しており、教職員の負担軽減の視点で、各学校で地域住民等が参画した取組が広がっていくよう努めてまいります。 また、学校運営協議会におきまして、学校運営に係る課題等を取り上げ熟議いたします。学校、家庭、地域がそれぞれ理解しあい手を取り合って共に学びながらより良い学校づくりを目指してまいります。</p> <p>「02) 教育のデジタル化」について <u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。 デジタル化の進展についてのご懸念、特に児童生徒の発達や脳への影響に関するご意見は重要なものと考えております。本市では、デジタル化を進めるにあたり、児童生徒の発達段階を十分に考慮した上で進めていく方針です。デジタル技術の利便性を享受する一方で、そのデメリットを最小限に抑</p>

	<p>また、今の子どもたちは、とても忙しい。そこにまた習い事のように決められたものを与えると、退屈を自分の力で埋めることや楽しむ方向に変える力が育たないのではないか。与えられた環境の中でしか、何かを出来ない子どもにならないか心配です。</p> <p>仕事をする人も、子育てのしやすい環境を整えることは、とても大切です。ですが、そうすることで、子どもが大きくなるまで働かず、子どもに「おかえり」を言いつつあげたい考えの家庭の人も、早く働きに出なければいけないような圧を与えかねません。双方に良い環境作りはとても難しいですが、家庭内の平和が保たれるような政策のため、今後も色々な所と対話をしながら、よろしく願いいたします。</p>	<p>えることが重要です。そのため、国内外の研究や事例を参照しながら、計画的にデジタル教育を構築してまいります。</p> <p>「03) 地域の活用」について <u>意見の取り扱い【参考】</u> ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>学校運営協議会におきまして、地域資源や人材を活用した教育課程の実現を目指してまいります。</p> <p>「アフタースクール」について <u>意見の取り扱い【参考】</u> ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>保護者の就労状況等にかかわらず、参加を希望する児童に「安全・安心な居場所」と「多様な体験・活動の機会」を提供してまいります。</p> <p>こどもの居場所を確保するとともに、学びや体験等の機会格差解消につながるものと考えております。</p>
3	<p>既存の学校で、希望する先生と生徒で、イエナプランのような教育法を取り入れ、自由度の高い、探求、対話重視のクラスが作れたらと思います。そうすれば、従来クラスのメリット、デメリットも見えてくると思います。</p> <p>特任校だと、地元の仲間と離れ離れになり、通学時間が長くなる等デメリットもありますし、一部の意識の高い家庭だけが恩恵を受け、一般層には浸透せず、分断や格差が進む懸念もあります。</p>	<p>「イエナプランのような教育法」について <u>意見の取り扱い【参考】</u> ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>いただいたご意見は教育の現場における新たな試みとして大変示唆に富むものであり、また、現状の課題を直視し改善を模索する重要な視点を含んでいると感じます。公立学校にお</p>

給食や一部の行事を一緒に行う等、交流があれば、お互い刺激を受け合うことができます。逆のクラスの授業を受け合う等、柔軟性があれば尚良いと思います。従来クラスの子も、新しいクラスの子が主体的に取り組む姿を見て思うところがあるだろうし、逆に新しいクラスの子は、校内一斉学力テスト等で、自分の学力の現在地を知ることが出来ます。両クラス授業参観し、目の輝きの違いを目の当たりにした保護者の意識に一石を投じることができれば、学校改革推進に繋がるのではと思いました。

それに何より、選択肢がある。どちらを選んでも、自分で決めた事により、子どもの主体性、当事者意識、責任感が生まれ、授業に望む態度が変わるかも知れません。

子ども達は入学時、早く勉強がしたいと言っていました。ところがそのすぐ後の授業参観で、早くも彼らの目が死んでいる。1から5までの数を数える授業だったかと思いますが、もう3年も前から知っている事を、じっと座ってただ言われた通り並べたり数えたり。一人だけ、先生の話を見聞かずにブロックを好きに積み上げたり並べ変えたりしている子がいましたが、クラスの中で今、この子の脳だけが活性化してるのではと思った程です。登校時、角を曲がるまで見送っていましたが、皆あっちにフラフラ、こっちにフラフラ、途中で立ち止まったりして、なかなか進まない。一年生って、こんなフワフワした感じなんだと思っていたら、校外学習の日は、皆真っ直ぐ、力強い足取りで、あっという間に角を曲がって見えなくなりました。子ども達がフラフラしていたのは、学校に行きたくない、でも行かなきゃいけない、その葛藤を示していたんだと胸が締め付けられる思いでした。あんなに学びに希望を持っていた子ども達を、疲れたサラリーマンのようにしてはいけません。毎日ワクワクした気持ちで、目的意識を持って登校して欲しいです。

インターナショナルスクールについて

令和7年度第7回印西市総合教育会議の動画を視聴しました。ユナイテッド・ワールド・カレッジ、素晴らしい学校だと思いました。印西市にもインターナショナルスクールの誘致を検討されているとのこと、このような学校だったら良いなと思いました。特にふるさと納税制度を使った奨学金の制度など、素晴らしいと思います。せっかく印西市に設立しても、市外からの富裕層ばかりが通い、一般市民は金銭面で受験のチャンスさえない

ける「イエナプラン」のような教育法の導入について、このような柔軟性と革新性を持った教育手法は、こどもたちの主体性や探究心を育むうえで有益であり、今後も参考にさせていただきます。

「インターナショナルスクール」について

意見の取り扱い【その他】

ご意見ありがとうございます。インターナショナルスクール誘致につきましては、印西市第2次基本計画に位置づけ、検討を進めてまいりますことから、趣旨は関係部局と共有させていただきます。

	<p>のでは悲しすぎます。希望する印西市の全ての学生に受験のチャンスがあれば良いなと思いました。年齢にもよるかもしれませんが、入学時の語学力や親の語学力等、入学要件を柔軟に対応していただき、外国人や一部の帰国子女だけではなく、一般的な印西市民にも開かれた学校であることを望みます。</p>	
4	<p>コミュニティ・スクールの制度はとてもいいと感じます。小学生のこどもの一保護者ですが、色々ボランティアやりたいなあと感じることが多々あります。ちょっとした掃除や修繕、プール掃除、プールの見守りなど、大々的なイベント以外でも、小出しでボランティア募集してくれたらと感じています。学校の先生方は保護者の負担が大きくないように配慮してくださっていますが、色々力になりたいと思っている親御さんも本当は多いように感じます。</p> <p>通知表の作成は先生方のご負担が大きいことだと思いますが、印西市の教育ビジョンを見ていると、ある共通の事柄について『◎、○、△』と評価をするのは方向性と合っていないように感じます。他の地域では通知表をなくしたという話も聞きます。慣習的なことなので難しいかもしれませんが、なくしてもよい感じに感じますし、もし紙で何か残す必要があれば、その子の特性や得意なこと、成長などを短い文章でまとめるというようなものでもいいように感じます（かえって負担が大きくなるかもしれませんが、不登校の子にも対応できますし、こどものそれぞれの良いところにも眼が向けやすくなるきっかけにもなるかもしれないので…）</p> <p>子どもたちの足腰に少し気になるところがあります。朝の運動量を増やして、授業に集中しやすいような流れがあったらいいなと感じます。コミュニティ・スクールは、毎日朝の時間にクラスみんなで肩入れ・肩回しをしたり、工夫してくれています。）</p> <p>印西市の街づくりについて、小学生の時から主体的に考えられたらいいと思います。小さなこと、例えば公園のルールでも、困ってることやどうしてだろうということについて調べて、どういう人が関わってくれているのか、どうしたら変えられるのかと、身近な事柄が少し立体的に見えるような経験ができたらいいなと思います。昨今のデータセンター</p>	<p>「コミュニティ・スクール」について 意見の取り扱い【参考】</p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>学校運営協議会におきまして、学校運営に係る課題等を取り上げ熟議いたします。学校、家庭、地域がそれぞれ理解しあい手を取り合って共に学びながらより良い学校づくりを目指してまいります。</p> <p>「通知表」について 意見の取り扱い【参考】</p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>通知表に関するご提案は、今後の教育評価の在り方について非常に重要な視点を提供していただいていると感じます。</p> <p>また、先生方の負担軽減も含めた評価方法の見直しにつきましては、継続的な課題として認識しており、今後も学校と連携を図りながら検討してまいります。</p>

	<p>の問題も、メリットデメリットなど考えられたらいいと思います。子どもたちがリアルに肌で感じ考えられることなので。</p>	<p>「こどもたちの健康」について <u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>こどもたちの足腰の健康と、授業への集中力は密接に関係しており、運動を通じて身体を活発にすることは、心身の健康を保ち、学習にも良い影響を与えると考えております。学年や施設の状況に応じて柔軟に対応し、運動内容や時間の工夫に努めるよう学校に働きかけてまいります。</p>
5	<p>1. 学校の適切な保護者対応の確立</p> <p>子供間(保護者間)のトラブル、担任や学校だけでは判断の難しい問題に関して市で、各トラブルに対応できるエリア担当の配置であったり、弁護士や心理士などの専門性の高い第三者を現場に派遣し対応できるようにしてほしいと思っています。教職員の負担軽減はもちろん、偏った意見が出てしまうことも防ぐことができ、納得のいく解決ができるのではと考えた次第です。</p> <p>木下小のスクールバスでは、バス乗車時に叩かれた児童が相手の謝罪を受け入れず、叩いたとされる児童はバスに乗れなくなってしまったという問題が1学期に発生しました。学校では担任立ち会いの元、当事者である児童とその親が話し合いに出席し、「席替え」による提案もされたものの最後まで叩かれた側が「また同じことがあったらどうするか」という点で折り合いがつかず、3学期に入った今もスクールバスに乗ることができていません。担任からは「乗ってよい」といった言葉ももらっているものの、新たな防止策の提案や次何かあった時の対応に関しては良い回答ももらえていないことから、再度バスを利用したくてもできない状況に陥っています。叩いたとされるお子さんも、話し合いの際に一方的に責められ他の大人達全員が敵かのような状況に恐怖心を感じてかスクールバスにより抵抗感を感じている節があるそうで、親としては乗ってほしくても現状の不確かな状況では安心して利用できず悩んでいるそうです。スクールバスを管理している学務</p>	<p>「1.学校の適切な保護者対応の確立」について <u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン(案)に既に反映しております(P12 人員体制の強化)。</p> <p>学校を取り巻く問題の複雑化・困難化が課題の一つであり、多様な専門人材の活用は必要不可欠と考えております。今後、迅速かつ適切に対応できる体制づくりを積極的に進めてまいります。</p> <p>「2.アフタースクール」について <u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>木下小の学童クラブの現状につきましては、市としましても認識しており、学校や指定管理者と協議を行っているところでございます。</p>

課にて監視カメラの設置や乗務員さんを配置するなり何かしら対応してもらえないか相談されたそうですが、こちらでは何もできないから学校に相談して下さいとの返答だったそうです。叩かれた現場を見て発言した人はいないにも関わらず、一方的に一人の児童が悪者扱いされ、スクールバスから追い出されるカタチになってしまった今回のようなことは、教育の場としても良い結果とは言えません。私も同じスクールバスを利用する身として、双方の児童、保護者が安心できる体制を整えられるよう動いてほしいなと思いました。しかしながら、全ての先生方にこういったことまで完璧に対応してほしいと願うのも違うように感じます。うまく解決して下さいるベテランの先生もいるかもしれませんが、時間を要することもあるため別の適任者の介入が今後必要になってくるのではと考えました。ご検討頂けましたら幸いです。

2. アフタースクールに関して親の就業に関わらず放課後に子供たちが集まれる場所をと奔走して下さい本当に嬉しいです。来年度には牧の原小、滝野小に開設予定とのことですが、木下小にも至急お願いできないでしょうか？理由として学童問題があります。木下学童は現在新3年生でも入所が厳しく、周辺に民間学童がありません。唯一送迎可能なこじか学童は待機児童 20 人超えだそうです。私の場合、家が宗甫のため車無しでお迎え可能な自宅近くの民間学童を入学前(R5年)から探していましたが、「木下小は対象校外」「卒園児優先で既にいっぱい」という理由で1年時、2年時共に民間学童は申請前に断られたり、申請しても落選。空きのある新設の学童でも、「木下小まで送迎バスは出せないし、市バスでは安全性が確保できないので受け入れられない」という回答でした。入学前学務課に相談した際も車でお迎えができないことがあると伝えても「民間学童を使って下さい」「学童の送迎は親の責任」「留守番できる年齢まで働くのを諦めては」といった感じでした。自分達ではどうにもできないから助けを求めているのに子持ちは共働きしてはダメなのかと悲しかったです。木下地区では学童が無理でも福祉センター内の児童館を利用する術があるようですが、改装時期と重なり、今正に居場所を失って困っている方が多いとのこと。そのためアフタースクール or その前身となる施設が早期に整えられることを願っています。また、私は宗甫という立地から、牧の原小のアフタースクールを牧の

	<p>原小に通っていない児童にも解放してほしいと願っています。宗甫は投票所の区分けや保育園、学童等、徒歩圏内にある施設やサービスが実質利用できないことがあります。またそれによって近所に住む友達が小学校入学と共に関係が希薄になって悲しむことも起きているちぐはぐな地域です。新しい住宅が多く乳幼児や低学年が多い中で友達と気軽に遊べる場所が近くにありません。就学区域の見直しも必要ですが、まずはそういった垣根を越えて地域の方との交流ができるようどうかご検討の程よろしく願いいたします。最後に、今とこれからを生きるの市民の声、現場の教職員の声を反映した教育ビジョンを作り、市長と副市長、教育長が率先して実現させようと動いて下さっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも応援しております。</p>	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭先生が担う業務のうち、学校以外が担うべき業務について 「除草作業、植木の剪定、花壇の管理、学校回りの落ち葉はき、学校回りの植木の手入れを当該業者に依頼」という業務も入れて欲しい。 ・教頭先生の業務軽減のため 教頭先生が授業を受け持たなくて済むように、人員を確保して欲しい。 ・地域学校協働活動について 現在、地域担当者の選定、呼び掛けを教頭先生が担うことになっており、先生の負担が増えている。 橋渡し役の配置が先ではないか？ ・その他 成績表の廃止を検討して欲しい。 特に芸術科目、体育、道徳、技術、家庭科に成績表は不要ではないだろうか。個人の資質が大きく左右する科目であり、できないことの個性を尊重すること、多様な価値観を認めることに繋がるのではないだろうか。また、成績表がなければ、その道のプロに教えをこうことも可能になり、成績表の負担がなければ印西市で教員をしたい、という人も増えるのではないだろうか。 	<p>「教頭先生が担う業務」、「教頭先生の業務軽減」について <u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P11 シャドーイング調査の実施）。</p> <p>除草作業等、学校以外が担うべき業務として、業者委託を進めて負担軽減を図っております。</p> <p>また、現在、本市には、県から教頭をサポートする人材の配置を受けております。今後、配置拡大を要望するとともに、市独自でも配置できるよう進めてまいりたいと考えております。</p> <p>「地域学校協働活動」について <u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P26 学校と地域による協働体制の整備）。</p> <p>コミュニティ・スクール導入校におきましては、地域学校協働活動推進員を配置し、学校と地域のコーディネーター役を</p>

		<p>担っていただく予定です。学校運営に必要な地域の支援については、学校運営協議会において共有されていくものとなります。</p> <p>「成績表の廃止」について <u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。文化芸術、運動といった科目は、個々の資質や多様性を重視すべき分野であり、一律の基準で評価することが必ずしも一人ひとりの能力や個性を正確に反映するとは限らないと考えます。個々の能力や特性をより大切にし、創造性を促進することができるよう、成績表の役割や評価方法について、学校と連携を図りながら検討してまいります。</p>
7	<p>市の施策の案に対する意見及びその理由：</p> <p>第3章「プロジェクト01 教職員：働くプロジェクト」について、学童指導員の経験と、日々マインドフルネスを実践する一市民の立場から意見を申し上げます。</p> <p>1. 「しわ寄せの分担」を超えた教育環境を 計画案にある業務の外部委託やデジタル化といった「引き算」の施策は、一見すると負担を減らすように見えます。しかし、現場の実感としては、先生が抱えていた苦労を隣の誰かに移動させたり、機械に置き換えたりするように受け取られることもあるので、教育現場全体の「心のゆとり」に繋がっていないのではと感じております。単に労働時間を削ることをゴールにするのではなく、先生が「この仕事に没頭できて幸せだ」と感じられる時間の質を取り戻すことこそが、できればいいなと思っております。先生を「人間」として輝かせる視点 先生を管理すべき「人員（駒）」として捉えるのではなく、感情と情熱を持った一人の「人間」として再起動させることも取り入れてはと思います。たとえば趣味に没頭している時は時間を忘れて動けるように、先生が自身の専門性を正当に評価され、相応の対価（給与や</p>	<p><u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。教員一人ひとり、高い志と情熱をもって学校の先生になっております。今後、誰もが原点に立ち戻れるよう、やりがいと働きやすさの両立が図れるプロジェクトを遂行してまいりたいと考えております。</p>

	<p>報酬)を得て、社会から敬意を払われる。そうした「誇り」を持てる環境があれば、無理に効率化を押し付けずとも、自ずと最高のパフォーマンスが発揮されるとおもいます。長時間を働ける人を作るのではなく、集中して仕事に没頭し、認められ、表彰されるような「人間」としての尊厳を重視した環境づくりも組み込んでもらえればと考えます、特に 給与 報酬については 給与法という大きな壁があるとは思いますが、できれば給与もモチベーションになりますので、印西市でできることがあるかもしれませんので給与UPもご検討いただければ、先生も誇りをもって働けると思います。</p> <p>2. 親御さんが「預けて当たり前」という感覚ではなく、先生を「共に子を育む尊いパートナー」として敬えるような、心の通った啓発や施策を期待しています。</p> <p>先生が「時間の切り売り」に追われるのではなく、誇りを持って子どもたちの前に立てる。そんな「心の静寂」と「プロとしての情熱」が同居する現場であってほしいと願っています。印西市が、制度の枠を柔軟に捉え、どこよりも先生も大切にす街になることを心から願っております。</p>	
8	<p>パブリックコメントの募集までの準備おつかれ様です。印西市教育ビジョン(案)もみさせていただきました。要点と施策(案)が一体になっておりわかりやすい資料になっていました。タイミングを考える必要があるものや、すでにみなさんが考えられているものもあると思いますが、3つほど、提言をします。</p> <p>1) 教職員</p> <p>教職員の専門性向上が記載されていました。これも大切ですが、一般的な社会の景色を知らない教職員が多いと考えます。戦略的な一般企業への一年以上のインターンシップを提言します。民間、世界では、ものすごいスピードで動いています。それを体感して学びの場にフィードバックすることは大切です、これにより教員の内的モチベーションも上がると考えます。</p> <p>2) こども</p> <p>デジタル・グローバルにフォーカスをした教育展開など大きな戦略が書かれていました。その施策に異論はありませんが、学校はもっと多様なものであるべきと考えます。</p>	<p>「1) 教職員」について <u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンに掲載は致しませんが、取り組みを進めていくうえで参考とさせていただきます。</p> <p>予測困難な時代において、社会情勢等を肌で感じることはとても重要なことであり、これからの教員にとって必要な資質と感じております。より実践的な学びの機会の充実に努めてまいります。</p> <p>「2) こども」について <u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。学校では地域の特性や児童生徒のニーズなどを生かし、独自の強みを持つことを目指し</p>

	<p>例えば、原山小はテック、六合小は、芸術など特徴ある学校システムを志向していただくことを提言します。難しい面もあると思いますが、こども（&保護者）に学校の選択肢を増やすこともできそうです。</p> <p>3) 地域</p> <p>このプロジェクトは、とても難しい領域になると推測します。なぜなら、このプロジェクトを支援する団体、個人企業は、一般的には、あまりリソースがないからです。思いだけで行えるものもありますが、私は、民間企業の事業として新しいこどもの居場所を作ることを提言します。例えば、イオンや地域の民間企業（例として北総フォレストのような企業）が、投資をして運営しているものになります。自治体は、そのノウハウやスタートアップの資金を提供します。</p> <p>以上が提言アイデアになります。ワクワクする印西市教育ビジョンに期待しています！ありがとうございました。</p>	<p>ているところです。今後も教育機会の公平性やカリキュラムの整合性など、公教育としてのバランスに留意しながら特色ある学校づくりに取り組んでまいります。</p> <p>「3) 地域」について <u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。こどもの居場所の確保につきましては、民間企業の活用を含め、多くの選択肢を確保し、地域の現状に見合った方法で実施してまいります。</p>
9	<p>大変詳しくてわかりやすいビジョンでした。実現できるよう努力してまいります。策定に携わってくださった全ての方に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。</p>	<p><u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。教職員の働き方改革とこどもの学びの保障の両輪で、各施策の実現に向けて努力してまいります。</p>
10	<p>印西市教育ビジョン（案）にて掲げられた「学びが変わる。未来が動き出す。」というスローガンのもと、子どもたちのウェルビーイングを核とした本計画は、教育の未来を切り拓く希望に溢れた内容であると深く共感いたします。長年、不登校の子どもや保護者の方々と関わってきた立場から、本質的な課題に光を当てた本ビジョンへの支持と、感謝の意を込めて以下の通り意見を述べさせていただきます。</p> <p>1. 教職員のウェルビーイングを起点とした「循環」の視点</p> <p>本ビジョンが、子どもたちのウェルビーイング実現に不可欠な要素として、まず、教職員が心身ともに健康で前向きに働ける環境を整えることが、結果として「こどもの笑顔」に直結するという視点は、極めて本質的で、多忙な現場に具体的にメスを入れようとする姿勢に、強い実現性を感じました。</p>	<p>「1. 教職員のウェルビーイングを起点とした「循環」の視点」について <u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。教員一人ひとりがやりがいを持ちながら、こどもと向き合える時間を確保できる環境に一層改善できるよう、プロジェクトを強く推進してまいります。</p>

	<p>2. 「学校がしんどい」子どもたちへの寄り添いと多様な居場所の明記 学校という枠組みの中で困難を感じる子どもたちに対し、多様な居場所を確保することを公式なビジョンに明記したことは、印西市の教育における大きな一歩です。子どもたちが安心して学べる「第3の居場所」が具体化されている点や、一人ひとりの状況やニーズに応じた拠点の整備は、子どもたちの学習権を守るための強いメッセージであると受け止めています。</p> <p>3. 公民連携と経済支援による「学習権」の保障 民間フリースクールとの連携や経済的支援を盛り込んだ点は、印西市として、画期的かつ先進的です。こういった補助を検討・実施することは、家庭の経済状況に関わらず、学びの選択肢を保障するものであり、印西市の「誰一人取り残さない」という固い決意を感じます。</p> <p>4. ビジョン策定プロセスへの敬意 今回の策定にあたり、総合教育会議において主要な方々が揃う中、重要なテーマをYouTubeで生配信し、議論の過程を公開しながら学びを深めてこられた姿勢に深く感動いたしました。このような透明性の高い対話こそが、市民と共に創り上げる教育の姿を体現していると感じます。</p> <p>「正解がない時代」において、子どもたちが幸せを育む力を養うために、教員の環境改善と多様な居場所の確保を両立させたこのビジョンは、印西市の教育が世界モデルへと進化する確かな希望です。本質的な施策の数々に、心から期待し、皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。</p>	<p>「2. 「学校がしんどい」子どもたちへの寄り添いと多様な居場所の明記」について <u>意見の取り扱い【その他】</u> ご意見ありがとうございます。印西市では教室に入りにくいと感じている児童生徒の支援のために、市内全小中学校への校内教育支援センターの設置や、市教育支援センターの増設など、個に応じた学びの場の整備を進めています。今後も子どもたちの学びの場の確保に努めてまいります。</p> <p>「3. 公民連携と経済支援による「学習権」の保障」について <u>意見の取り扱い【その他】</u> ご意見ありがとうございます。フリースクール連絡会等を通して、民間の不登校児童生徒支援施設との連携も併せて進め、子どもやご家庭への支援について検討を進めてまいります。</p> <p>「4. ビジョン策定プロセスへの敬意」について <u>意見の取り扱い【その他】</u> 策定過程について、ご評価いただきありがとうございます。今後も対話を大切にしながら教育ビジョンの実現に向け取り組んでまいります。</p>
1 1	<p>教職員 働くプロジェクト、ありがとうございます。 学校現場は、一日中忙しく私たちは日々の行事に追われていて疲弊していることが多いです。放課後も会議や打ち合わせ、生徒指導上の保護者への連絡、全体での準備などが毎日あり、肝心の授業準備が始まるのは勤務時刻が過ぎたあとです。</p>	<p><u>意見の取り扱い【記載済み】</u> 市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P12 人員体制の強化、P13 業務・勤務時間の適正化）。 教員の配置数については、毎年国に教員数拡充のための制</p>

	<p>今年度も、空き時間が全くない曜日が何日もあります。1日、6時間授業しっぱなしです。何かの科目を請け負ってくださる先生がいてくださったら、と熱望します。または、授業を市職の先生の充実（人数、時間、日数的なこと）、スクールサポートスタッフのようなお仕事をしてくださる業務を手伝ってくださる方の増員など、人的配慮を求めたいです。</p> <p>また、放課後の電話が多く、その対応にも追われていますので、印西市で統一して例えば5時とかから留守電設定にさせていただきたいです。近隣の市で実施していましたが、(学校からは掛けられるため、)周知され問題ありませんでした。</p> <p>このような意見を述べる機会をいただき、ありがとうございました。</p>	<p>度改善を求める要望書を提出しております。今後市独自でも学校現場を支える人員配置が進められるよう努めてまいります。</p> <p>また、現在電話回線の更新工事に伴って、各学校に段階的に自動音声ガイダンスを導入しているところでございます。</p>
1 2	<p>現在印西市では、担任がもつ週の時数が多いと思います。そのため、専科として担当職員の配当があると負担軽減につながると思います。</p>	
1 3	<p>「正解がない」といわれる時代において、子どもたちが、「幸せに生きる力を自ら育むこと」に学校で教師が伝えることの難しさを感じながらも、最優先事項であると考えため、協働し解決していきたい。</p>	<p><u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。新しい時代の学びの実現に向けて、担い手である教職員の指導力向上は言うまでもなく、地域の方々による教育活動への参画も必要であると認識しております。地域の力を大切しながら、施策等を進められるよう努めてまいります。</p>
1 4	<p>インクルーシブ教育をはじめとした印西市独自の文化を体現する教育を市内に実装するためには、学校環境への働きかけと同時に、その社会的価値を生み出すための人材育成（行政職、教育職、その他の専門職）が重要だと考えました。</p> <p>特に、「どのような状況にも適応しながら価値に基づく行動を選択し実行できる」といった、文脈的行動科学に基づく心理的柔軟性をもつ人材育成と、「この組織では失敗しても取り返せる」といった、心理的安全性のある組織風土を構築する人材育成を、両輪で行うことが求められます。</p> <p>単発の研修のみならず、日頃の業務のマネジメントにこうした視点を取り入れ、互いに成長し合う組織づくりを目指していけると良いと考えます。</p>	<p><u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p> <p>管理職を中心としたマネジメント力が高められるよう支援していきたいと考えております。</p>

	<p>具体的には、PDCA サイクルから OODA ループへの転換や、prosocial の導入、部署横断的かつ実現可能な好事例の共有や、官民の連携による先進的取組への挑戦など、日常の実務を遂行しながらも実行可能な取組が望まれます。</p> <p>また、教育現場における、スクールソーシャルワーカーの運用による教育と福祉の連携、医療的ケアによる教育と医療の連携、特別支援教育におけるコーディネーターと支援員の効果的活用など、多職種連携による課題解決が求められる際には、お声かけいただければ微力ながらお力添えさせていただきます。</p>	
15	<p>小学校で教員をしていますが、今後文部科学省、県、市町村で何の動きもなければ3年以内にはこの仕事をやめようと思っております。同期ともそのような話をします。積極的に転職の仕事や話をいろいろ情報を集めてます。子供のための仕事というより、保護者の目のための仕事ばかり！本当にやりたい教育ができない現状です。</p> <p>まずは、圧倒的に職員の数が足りてません。年度はじめにマイナススタートが当たり前です。休みづらい環境など現場では問題が山積みです！</p>	<p><u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。未配置等が生じて業務負担が増大していることは、認識しております。今後、先生方の意見を聞きながら、プロジェクトを強力的に進め働きやすい環境を整えてまいります。</p>
16	<p>いつもありがとうございます。</p> <p>アーカイブ、毎回拝見させていただいており、最近の印西市の教育改革をとってもありがたく思っております。</p> <p>学校教育についての意見を述べさせていただきます。</p> <p>【包括的性教育を取り入れていただきたいです】</p> <p>国連ユネスコが発行している国際セクシュアリティ教育ガイダンスでは、年齢別に5～8歳をレベル1、9～12歳をレベル2、12～15歳をレベル3、15～18歳をレベル4に分け、それぞれの学習目標がまとめられています。</p> <p>年長さん、小学校低、中、高学年と、それぞれ段階を追ってお話することで、子どもたちにスムーズにこころやからだとの付き合い方が身につくと思います。</p> <p>例えば 小学2年生→プライベートゾーン、境界線について</p>	<p><u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p> <p>「性教育＝命の教育」としてとらえ、児童生徒の実情や社会状況を踏まえながら、発達段階に応じた指導をしていくことは重要であると認識しているところです。そのため各小中学校におきましては、学習指導要領に即した内容を児童生徒の発達段階にあわせて性教育を実施しており、助産師を講師に招き、すべての小学6年生と中学3年生を対象に「性に関する指導」を実施しているところでございます。</p>

	<p>小学4年生→保健体育で習った生理や射精について、より暮らしに身近な切り口でお話をし（ナプキンを触ってみよう！経血や性液がパンツについたらどうする？等々）自分の身体を肯定的に科学的に理解してもらおう。</p> <p>小学6年生→LGBTqについて</p> <p>中学1年生→デートDVについて</p> <p>など。</p> <p>“性教育＝命は大切&妊娠避妊性感染症”という図式で育ってきた今の大人たちがこれらの概念をまた学び直すことは難しいと思いますが、学び直すことはできるとおもいます。</p> <p>近隣ですと、白井市が、松戸市の教育委員会に所属する助産師のやまがたてるえ氏（性教育の書籍を多数出版されています）をお招きし、性教育の学びを少しずつ現場に取り入れて行っています。</p> <p>そのようにしっかりとした学びをしてきた専門職による性教育を取り入れ、子どもたちや保護者のウェルビーイングに繋がっていくことのぞみます。</p>	
17	<p>6.7 ページのビジョンは、とても良いと思います。その柱を、市民や教員と深く共有し、教員のよろこびとは何なのか、自分らしく生きるとは何なのか、みんなで深く考えることこそが、大切だと思います。</p> <p>具体的にあれこれ施策を開始する前に、それぞれが考え意見を交わし合う時間こそが、ビジョンの達成につながると思います。</p> <p>これからの時代に、デジタル教育は欠かせないとは思いますが、デジタル教育ありきになってはいけないと思います。この文面を見ていると、デジタル教育に取り組みねばならない、問いをもち探求する主体的な学びをさせなければいけないと、先生方が文面だけにとらわれ、子供に押し付ける形になってしまうと思います。そうならないために、児童の発達特性の順番に考慮したビジョンが必要だと思います。</p> <p>例えば、探求的な学びは、自ら「あれなんだろう、これなんだろう、不思議だな、こうしてみたいな」と、率直に思える素直さが必要です。その素直さとは、幼少期に余白があ</p>	<p>全体を通して 意見の取り扱い【その他】</p> <p>ご意見ありがとうございます。教育ビジョンの策定にあたっては、学校現場の先生方との懇談会やアンケート等を実施し、貴重な意見として各プロジェクトに反映しております。今後も、学校現場を第一に考えながら、迅速かつ適切に取組が進められるよう努めてまいります。</p> <p>「教育のデジタル化・探究的な学び」について 意見の取り扱い【その他】</p> <p>ご意見ありがとうございます。デジタル教育推進においても、児童生徒の発達特性や主体性を考慮しながら進めていく</p>

	<p>ることで生まれます。習い事や宿題、やるべきことに追われている子は、空いている時間に自分のやりたいゲームや YouTube に時間を奪われてしまいます。何もしなくていい時間、暇な時間こそ、主体性が育まれる時間です。何もしていないようで、子供は何かを発見しようとしています。(ただし、ゲームや YouTube がそばにあるとそればかりになります。)などで、あえて、教師が、あれこれ細かい指示を出さない時間にも、そういう価値があると言うことを、共有しても良いのではないのでしょうか。先生方は真面目なので「こういう力をつけなければ」と一生懸命考え、あれこれ言ってしまいがちです。実はそれによって、主体性が奪われてしまっている場合もあります。なので、特に低学年には、自然の中でのびのび遊ぶだとか、虫に夢中になるとか、一見、ただ遊んでいるだけの時間のように見えますが、主体性を育む貴重な時間だと思います。そういう時間を先生たちが堂々と取れるようにしてあげることが、高学年や中学生になったときに、自ら問いを持ち、素直にいろいろな人の話に興味を持ち、主体的に探求しようとするのではないのでしょうか。</p>	<p>必要性について、ご指摘の点は非常に大切だと考えております。特に小学校低学年では、自然の中で学ぶ時間や自由な発見の時間を大切にし、その余白から芽生える好奇心や主体性を育むことも重要であると考えております。市といたしましても、このような視点を重視し、教員研修などにおいて、教師が児童の自然な発達に寄り添い、自由な探究心を助長する教育活動を展開できるよう支援してまいります。</p>
18	<p>■教職員の目指す姿の実現</p> <p>教職員の働き易さ：想像を生むための時間的な余裕を作る。</p> <p>対策：・クラブ活動の外注化。</p> <p>・人員増員：教科を教える担当とコミュニケーションを主体とする担当の2名体制の確立。</p> <p>効果：余裕時間の活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間等とのコミュニケーションの場を作る。 ・内部だけの施策だけでなく、社会との情報交換により、バランスのとれた魅力ある教職員が育成する。 ・外部とのコミュニケーション：研究日の設定。異業種などの勉強会などの参加。 <p>■こどもの目指す姿の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来を切り拓く世界モデルの学び：AIのプロンプトエンジニアの育成。これを、高校への引継ぎを行う。 	<p>「教職員の目指す姿の実現」について</p> <p>意見の取り扱い【参考】</p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p> <p>「バランスのとれた魅力ある教員の育成」については、予測困難な時代において、また学校を取り巻く問題の複雑化を考えますと、必要不可欠なことであると痛感しております。</p> <p>「こどもの目指す姿の実現」について</p> <p>意見の取り扱い【その他】</p> <p>ご意見ありがとうございます。本ビジョンでは、義務教育9年間を見通した一貫性のある学びの実現を目指しております。こうした学びが高校段階移行へとつながっていくことは</p>

この学びを引き継げる高校がなければ、印西市立デジタル高校を設立しては？
(例：習志野市立高校、船橋市立高校等) これまですれば、世界モデルでしょう。
※グローバル社会を見据えるなら英語での授業を取り込み、積極的な交換留学仕組みを取り入れる。
こんな学校を創れば、興味ある教職員も全国から、全世界から集まるのではないでしょう。

■地域の目指す姿の実現

- ・学校と地域が連携：農村留学、職業体験、NPO 活動への参加により、地域の大人たちとのつながりが増えてくる。
その中で、いろいろな人の価値観との接触を図ることができる。
- ・中学校部活動の地域展開：印西市の中学生を一斉に集めて活動する。専門トレーナーの指導の元、交流試合と合同練習を企画する。

参考：渋谷区で実施の中学生のスポーツに関する取組中。印西市では、下記施設にて可能。

- ・テニス：千葉ニュータウンのアルドールテニスクラブにて
- ・フットサル：千葉ニュータウン、木下の交流の杜にて
- ・ボルダリング：松山下にて

効果：子どものプロ意識のきっかけと、専門トレーナーの雇用安定育成。

■まとめ

正解のあるこれまでの学校教育。

変化が激しく先が見通せない正解のない時代において、

- ・こどもが自ら問題を『発見』し、
- ・こども一人ひとりが、『仲間』（教職員、子ども同士、親も含めた地域の人々）との『コミュニケーション』を通し、
- ・『AI』を活用し、

そして、自らの問題を解決する力を育み、わくわくする未来を創る。

望ましい姿であると考えており、その環境づくりにつきましては、今後検討してまいります。

「地域の目指す姿の実現」について

意見の取り扱い【参考】

ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。

学校運営協議会におきまして、地域資源や人材を活用した教育課程の実現を目指してまいります。

<p>19</p>	<p>本ビジョンは、印西市の教育施策の方向性を示す重要な行政文書であり、市民にとって大きな意味を持つものと受け止めております。その一方で、全体を通して現状認識や課題整理がやや抽象的であり、施策の妥当性を判断するための根拠が十分に示されていないのではないかと感じました。</p> <p>まず学校教育についてですが、現行学習指導要領に基づく教育改革が、市内の学校現場でどの程度進んでいるのかという「現在地」が示されていません。主体的・対話的で深い学びや探究的学習、総合的な学習の時間、ICT活用などが、市内各校でどのように実施され、どのような課題があるのかについて、教育委員会としての認識を具体的に示していただきたいと考えます。現状分析が明確であってこそ、今後の施策の効果も検証できるのではないのでしょうか。</p> <p>次に教職員の働きやすさについてですが、業務削減や効率化に関する記述が中心である一方、学校組織のあり方という視点が十分とは言えないように感じます。教職員の負担感、業務量だけでなく、管理職のマネジメントや職員室が協働的に機能しているかといった、いわば「ワンチームの職場」であるかどうか大きく左右されます。常に問題意識を共有し、全職員で課題に向き合う組織づくりに関する方針についても、ビジョンの中で明確にさせていただきたいと思えます。</p> <p>また、生涯学習・社会教育を通じた地域コミュニティ形成の視点が、十分に位置づけられていない点を懸念しております。コミュニティ・スクールの取り組みが後発である印西市にとっては、中学校区ごとに大きく異なる地域力の差を踏まえながら、学校と地域をどのように結び直していくのが重要な課題ではないのでしょうか。生涯学習・社会教育は、地域ウェルビーイングを支える基盤であり、その役割を明確に位置づける必要があると考えます。</p> <p>さらに、生涯学習・社会教育についても、現在どのような課題を抱えているのかについて、教育委員会の認識が十分に示されていないように感じました。市民一人ひとりが「学び」を通じて幸福感や社会的なつながりを得ていくために、どこを起点として、どのような行政的手立てを講じていくのかを明確に示していただきたいと思えます。</p>	<p>「学校教育の実施状況と課題」について <u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>本市の教育の現状と課題につきましては本ビジョン（案）に表記しております（P17 印西市の現状と課題）。</p> <p>市内小中学校におきましては、学習指導要領に基づいた教育に取り組んでいるところです。</p> <p>「教職員の働きやすさ」について <u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P11 エンゲージメント調査の実施）。</p> <p>来年度検討事項であるエンゲージメント調査を通して、組織の問題点の見える化を図り、教員一人ひとりのやりがいを高めるとともに、管理職のマネジメント力向上にもつなげ、働きやすい環境づくりに努めてまいります。</p> <p>「地域コミュニティ形成の視点」、「生涯学習・社会教育」について <u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。生涯学習、社会教育に関する事項につきましては、別途計画を策定する予定です。</p> <p>生涯学習、社会教育に係る現状と課題については、取りまとめたうえ、各種施策を計画に位置付けてまいります。</p> <p>地域の関わり方が地域により異なっている現状は認識しておりますので、今後随時導入していくコミュニティ・スクール</p>
-----------	--	---

	<p>理念や方向性だけでなく、現状と課題を丁寧に共有したうえで、市民が検証できる教育ビジョンとして再検討されることを期待しております。</p>	<p>において、情報を共有し、地域とともにある学校づくりを目指してまいります。</p>
20	<p>本塾小学校に勤務しております。お世話になっております。トイレですが、壊れている所が多く、使える所が少ないため困っています。昇降口の玄関とびらが一箇所開かず、避難時、危険だと感じます。理科室の冷暖房がなく、夏は教室で、理科をやるしかありません。</p> <p>施設に関して、ニュータウンとの大きな差を感じています。早急に直していただきたく、ご意見申し上げます。</p>	<p><u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。特別教室の空調につきましては令和8年度中に設置予定です。</p> <p>また、学校施設の改修につきましては計画的に実施してまいります。</p>
21	<p>先進国がデジタルから紙に教科書が戻ろうとしているのに、どうしてデジタルにこだわるのか？</p> <p>なぜ、漢字・計算マスターがなくなったのか？理由を聞きたい。英語だけ残るのは、どうしてなのか？</p> <p>小規模校を大切にしてほしい。手厚くしてほしい。児童数が、少ないからと言って、教職員の数を減らさないでほしい。</p> <p>各学校にICT支援員がいつもいてほしい。月2回では、少ないと思う。</p> <p>保護者対応の弁護士を中学校区に配置してほしい。</p> <p>教育にはお金がかかるので、設備費など予算をかけてほしい。</p>	<p>「弁護士の配置」について</p> <p><u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P11 専門チーム体制の構築）。</p> <p>昨今の学校現場を取り巻く問題の複雑化・困難化を考えますと、専門的人材の活用は必要不可欠と考えております。早期実現に向けて取り組んでまいります。</p> <p>その他いただいたご質問等について</p> <p><u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>本ビジョンに対するご意見として受け止め、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
22	<p>○教育委員会にスクールカウンセラーを配置とありますが、その目的は何ですか。もし教職員のメンタルケアのみを目的としているなら、産業カウンセラーの方が分かりやすいかなと思いました。</p> <p>○市教育委員会主催で、年1回、不登校生徒を対象に進路説明会を行っているところがあります。実際にサポート校などをお呼びして説明してもらい、全体の流れを市教委が話します。進路については保護者も子ども自身も非常に不安です。しかし、学校によって、担任によって、対応が異なるのも事実です。また、学校見学にいかうと思っても知らな</p>	<p>「不登校支援」について</p> <p><u>意見の取り扱い【その他】</u></p> <p>ご意見ありがとうございます。不登校支援については教育センターの指導主事が対応するとともに、本年度より教育センターに心理士を配置し、児童生徒や保護者への初回面談、検査の実施、継続面談を指導主事と連携して行っております。不登校に関する相談窓口の周知に関しては、教育センターや学</p>

<p>いところへ行くエネルギーがなかったりします。そのため、市教育委員会が丁寧に進路説明会を行うことで統一感が生まれ、市内でサポート校の話をきけると、保護者や子どももの安心感につながります。</p> <p>○市教育委員会に不登校支援のための心理士がいるといいなと思っています。そのメリットについて以下にまとめます。</p> <p>①学校で緊急対応が必要な事案が出た場合(死亡事故など)の対応について</p> <p>緊急対応の場合は、おそらく県の心理士が派遣されると思います。しかし、要請してもすぐには来なかったり、時間や予算に制限があったりします。そこで、市の心理士も一緒に緊急対応に入ること、連携がとりやすく、県心理士派遣が終わった後も長期的に支援することが可能です。勤務時間や交通費などの費用の面でも融通がききやすいです。</p> <p>②児童生徒への直接的な支援</p> <p>校内のスクールカウンセラー(SC)は学校にいるため、不登校になると相談をしに行くこと自体が難しくなったり、相談内容が担任などになると更に話しづらかったりします。しかし、学校とはまた違う中立的な立場の市教育委員会心理士になら、「学校にいいにくい悩み」を相談することが出来ます。</p> <p>まきばやフリースクールなどの集団に入るエネルギーがまだない生徒に対し、個別でかかわることが可能です。一緒に遊んだり、話をしたりと継続的にかかわることで、子ども自身と信頼関係を築き、課題の整理を行います。そして、次のステップをどうするか、何をしてみたいのかを一緒に考えていきます。</p> <p>子どもにとって、学校の先生や保護者とは違う立場の専門家が身近にいること自体が安心感につながっていくと思っています。</p> <p>(また、以前の職場はこの心理士の継続面接にくることを出席とみなしていました。そうすることで来所へのモチベーションにつながったりします。しかし賛否両論あった気がします)</p> <p>③市教委の一員として</p>	<p>校での相談の流れをまとめた手引きを市内小中学校児童生徒の全保護者に対し、デジタル配信することによって紹介しております。</p> <p>また、教育センターのHPにも本手引きを掲示しておりますのでご確認ください。</p> <p>「専門家たちの協力」について <u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン(案)に既に反映しております(P11 専門チーム体制の構築)。</p> <p>専門的人材の活用を積極的に進め、こどもの指導に関わる課題の複雑化や保護者の学校に対するニーズの多様化に円滑に対応できる環境を整えてまいります。</p>
--	--

	<p>市教育委員会の所属なので、市教委の一員として動くことができます。個別の相談はもちろんですが、それだけでなく、調整的な役割も担っていると思っています。指導主事と協力しながら、SSW や SC などの専門家、担任と連携して、学校復帰の際は環境調整を行い、子どもを支えています。</p> <p>また、必要に応じて校内適応指導教室(校内教育支援センター)の巡回も出来るかなと思っています。専門的な見立てが必要な場合や、緊急な場合など、要請があればかけつけることが出来ます。校内教育支援センター内で困っているケース等を市として把握し、専門的視点から一緒に考えられたらと思います。</p> <p>○不登校相談の窓口を明確化する</p> <p>「登校を渋り始めたら、不登校になったら、まずは教育センターに電話を」「どんなことでも気軽に相談してください」等、連絡先がわかりやすくなっているリーフレットがあるといいなと思います(あるのかな?もしあったら申し訳ないです)。</p> <p>見通しを図式化することが大切かなと思っています。</p> <p>教育センターに電話→受理面談→相談員による継続面接</p> <p>受理面談で、担当相談員を決定します。相談員が決まったら、継続面接がスタートします。</p> <p>以上、提案になります。</p> <p>現場の教職員が問題を一人で抱え込まず、「チーム印西」として、専門家たちが協力し合いながら、一人一人の子どもたちを支えられたらと思います。それが結果的に教職員の負担軽減につながると思います。</p> <p>今後の印西市の発展を期待致します。</p>	
23	<p>印西市教育ビジョン(案)について意見いたします。</p> <p>P.1</p> <p>イラスト部分に、印西市教育ビジョンの目次を入れると良いのではと思います。知りたことがあるときに目次があると検索しやすいからです。</p> <p>P.2</p>	<p>「目次の掲載」について 意見の取り扱い【その他】</p> <p>ご意見ありがとうございます。本ビジョンは内容を簡潔にわかりやすく伝えることを重視し、冊子ではなく電子媒体での公開を前提としておりますことから、目次の掲載は行っておりません。</p>

「印西市教育ビジョン」は「印西市教育大綱」と「印西市教育振興基本計画」を一本化したと書かれていますが、この「印西市教育ビジョン」案には、「印西市教育振興基本計画」にあった基本方針3「すべての市民の健やかな心と体を育む学びの推進」部分が含まれていません。

たとえば、「印西市障がい者プラン」に、国の「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」の施行について記載がないのは、連携する「印西市教育振興基本計画」にその記載があるためとのことですが、一本化された後の「印西市教育ビジョン」にすべての市民を対象とした教育に関するその記載がなくなってしまうと、どこからも参照できなくなるので困ります。

生涯学習や年代を限らない学習における障がいバリアフリーは別の計画に分離することとなら、その旨を記載すると良いのではと思います。

たとえば、「これまでの「印西市教育大綱」と「印西市教育振興基本計画」の、子どもへの教育部分を分離して一体化し「印西市教育ビジョン」を策定。生涯学習や年代を限らない学習における障がいバリアフリーなどについては別計画を策定する。」等の文章にすると良いのではと思います。

また、生涯学習や年代を限らない学習における障がいバリアフリーについてなどの別の計画にも「印西市教育振興基本計画の」一部であることを記載すると良いのではと思います。

P.2

「計画の位置付け」が、教育大綱と教育振興基本計画とその施策との説明になっていて、「印西市教育ビジョン」とほかの計画との関係がわからなくなっています。そのため、「教育大綱」と「教育振興基本計画」を囲んでいる四角に「印西市教育ビジョン」と表名をつけ、その四角の横に「関連する分野別計画（「いんざい子育てプラン」「印西市まち・ひと・しごと創生プラン」「印西市障がい者プラン」など）」を入れ、「連携」「整合」の矢印などを間に入れて、関連する分野別計画と「連携・整合」することを示すとよいのではと思います。

「生涯学習に関する事項」について

意見の取り扱い【その他】

ご意見ありがとうございます。印西市教育振興基本計画における生涯学習に関する事項につきましては、別途計画を策定する予定です。記載方法等に係るご意見につきましては、参考とさせていただきます。

「計画の位置づけ」について

意見の取り扱い【その他】

ご意見ありがとうございます。本ビジョンは内容を簡潔にわかりやすく伝えることを重視した構成としているため、他の計画との関係性は掲載しておりませんが、教育ビジョンの実現に向け、十分整合を図り連携して進めてまいります。

「まきば」について

意見の取り扱い【その他】

ご意見ありがとうございます。市教育支援センターの名称につきましては、広がりのある環境の中で、児童生徒が安心してのびのびと学び、成長していく場をイメージして名付けたものです。いただいたご意見は参考としつつ、引き続き名称に込めた趣旨を大切にしながら取り組んでまいります。

	<p>その際、生涯学習に関する計画が策定される予定があるなら、その計画も関連する分野別計画に含めるとよいのではと思います。</p> <p>P18、P21、P22</p> <p>「（仮称）街のステーションまきば」の「まきば」は、家畜の放牧場の意味なので、主体的な子ども達の学び場の名前にはそぐわないと思います。「ひろば」や「学び場」などや、ほかの名前を公募などするとよいのではと思います。</p>	
24	<p>1.目的</p> <p>本意見書は、外国にルーツを持つ子どもたちに関して、市の教育政策において確認される課題および不足点を整理・記録し、今後の行政的検討に資することを目的として提出するものである。本意見は、既存の教育政策文書、公開されている教育関連会議の記録、ならびに確認されている在籍数に基づく事実資料として位置づけられる。</p> <p>2.現状の背景</p> <p>市内の公立学校には、外国にルーツを持つ子どもたちが在籍している。現在、小学校には166名、中学校には約61名が在籍している。しかし、現行の教育政策文書および教育関連会議の記録を確認したところ、これらの子どもたちは、特有の状況や配慮を必要とする集団として、政策レベルにおいて明確に位置付けられていないことが確認された。</p> <p>3.教育政策における言及の不足</p> <p>教育ビジョンを含む市の教育方針文書では、包括的な教育の重要性が示されているものの、外国にルーツを持つ子どもたちについての具体的な言及は見られない。その結果、学校への参加、意思疎通上の課題、教育支援へのアクセスといった点について、在籍数が把握されているにもかかわらず、政策の枠組みに十分に反映されていない状況が生じている。外国にルーツを持つ子どもたちもまた、地域社会の一員であり、将来の地域の平和と調和を支える存在として位置づけられるべきである。</p>	<p>全体を通して</p> <p><u>意見の取り扱い【記載済み】</u></p> <p>市では、当該内容は本ビジョン（案）に既に反映しております（P21 多様な学びの保障と包摂的な支援体制の整備）。</p> <p>教育ビジョンに示してありますように、誰一人取り残されることなく、すべてのこどもが自分らしく学びに参加できる拠点と支援体制を整えることが必要と認識しております。この課題において、外国籍児童生徒も考慮しており、ご意見を参考にしながら各施策を進めてまいります。</p> <p>「7.コミュニティ・スクールの活用」について</p> <p><u>意見の取り扱い【参考】</u></p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p> <p>外国にルーツを持つこどもやその家族が安心して生活できる環境づくりは重要であると認識しております。</p> <p>コミュニティ・スクールにおいて、学校と地域が連携し、こどもが社会のつながりの中で学びながら、地域住民や保護者が学校運営に参画することで、情報共有や地域のつながりの強化を図ってまいります。</p>

4.教育関連会議における課題

公開されている教育関連会議の記録および録画を確認したところ、教育全体の目標、学校運営、一般的な生徒支援については議論が行われている。

一方で、以下の点については、具体的な言及や検討が確認できなかった。

- ・外国にルーツを持つ子どもたちの存在
- ・市内学校に在籍する当該児童生徒の人数
- ・学校および地域社会との関わりや意思疎通に関する課題

小学校・中学校の双方に一定数の在籍があることを踏まえると、これらの点が議論の対象となっていないことは、検討を要する事項である。

5.直接的な市民関与の必要性

現在の行政的対応は、外国にルーツを持つ市民に関する課題について、間接的または第三者的な経路に依存する傾向がみられる。

しかし、子どもに関わる教育課題においては、市と市民との間の直接的かつ継続的な関わりが不可欠である。

直接的な関与により、実際のニーズを把握し、教育および地域活動への参加を確保し、市民の声を政策立案および実施に反映させることが可能となる。

これは困難な施策ではなく、地方行政における基本的な機能の一つである。

6.翻訳機器の役割と限界

近年、言語上の過大への対応として翻訳機器の活用が十分であると捉えられる場合がある。

しかし、翻訳機器を提供するだけでは、外国にルーツを持つ子どもたちが直面する本質的な課題は解決されない。

教育への参加には、継続的な対話、文脈の理解、児童生徒・家庭・学校間の意思疎通が必要であり、機器のみに依存する対応では、人的な関わりや構造的な支援を代替することはできない。

7.コミュニティ・スクールの活用について

教育ビジョンでは、学校と地域との連携・協働が重視されている。

その実現にあたっては、コミュニティ・スクールが、外国にルーツを持つ子どもたちおよびその家庭にとっても、安心して参加できる開かれた場として機能することが重要である。

コミュニティ・スクールを、学習支援、情報共有、交流の拠点として位置づけることで、家庭・学校・地域のつながりを強化し、孤立の防止につなげることが期待される。

8.教育支援に関する検討事項

教育ビジョンに掲げられた理念を実際の教育現場で実現するため、以下の点について検討の余地があると考ええる。

- ・継続的な支援を必要とする児童生徒への放課後等の支援
- ・新たに来日・転入した児童生徒や就学前段階への支援
- ・保護者との直接的な関わりを重視した情報共有や進捗報告
- ・翻訳機器への過度な依存を避け、人的な支援と直接的な関与を重視する体制

9.多様な人材の活用について

教育現場には、日本語教員免許を有していないものの、実務経験や多文化的背景を生かして教育支援に貢献している人材が存在する。

形式的な資格の有無のみならず、実務経験や専門性を踏まえた柔軟な人材活用の在り方を検討することは、教育支援の質の向上および多様性のある学習環境の形成に資するものと考ええる。

結び

本意見書は、市内学校における外国人にルーツを持つ子どもたちの在籍状況が把握されている一方で、その存在が教育政策および教育関連の検討の場に十分に反映されていない点を明らかにしたものである。

本意見は教育ビジョンの方向性を否定するものではなく、その理念を全ての子どもにとって実効性のあるものとするための、事実に基づく意見として提出するものである。

<p>2 5</p>	<p>教育大綱と教育振興基本計画を統合して教育ビジョンを作成するにあたり、教育部の中に含まれる生涯学習教育が全く抜けている事は、良くないと思われる。 生涯学習教育を含んだビジョンをつくるべきだと思う。何処にもその記載がないのは何故か。 プロジェクト 03 地域：共に育むプロジェクトの展開 放課後の過ごし方、子どもが安心して過ごせる場所に図書館がある。印西市の図書館は中高生を受け入れる体制がない。場所は工夫すればある。例えば、小倉台図書館には奥に小部屋がある。そこを開放する。行政の考え次第で、子供たちを受け入れることは可能だと思う。ぜひとも、図書館をそのような場所にして、こどもが集える場所にして欲しい。</p>	<p><u>意見の取り扱い【その他】</u> ご意見ありがとうございます。生涯学習に関する事項につきましては、別途計画を策定する予定です。いただいたご意見につきましては、図書館等での学び場づくりの参考とさせていただきます。</p>
<p>2 6</p>	<p>本(案)は、教育大綱と教育振興基本計画を一体化させたものであると銘打っているが、現在の教育大綱の4つの基本方針①学校教育の充実②教育環境の整備・充実③歴史・文化の保護・活用と芸術活動の振興④生涯学習の推進と青少年の健全育成の内③④が抜け落ちているので、それらを含めた形のビジョン(案)として、子どもから高齢者まで市民一人ひとりが自ら学び、生きがいや自己実現などにつながる生涯を通して学習できる環境づくりを進めてもらいたい。 現在の教育振興基本計画の基本目標でもⅠ知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む(学校教育)Ⅱ子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる(教育環境)Ⅲ市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する(文化・芸術)Ⅳ市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる(生涯学習・青少年健全育成)というようにバランスよく幅広く「学校教育」「教育環境」「文化・芸術」「生涯学習・青少年健全育成」の目指す所を規定している。 前計画における成果・課題を十分検証し、文化・芸術・生涯学習・青少年健全育成など市民の学びにとって欠かすことのできない社会教育分野も含めて、次期計画を形作って頂きたいものと思う。</p>	<p><u>意見の取り扱い【その他】</u> ご意見ありがとうございます。歴史、文化、芸術及び生涯学習に関する事項については、別途計画を策定する予定です。 こどもから高齢者までの多様な学習機会の提供、充実に努めてまいります。</p>

<p>27</p>	<p>趣旨に添わないところもあるかと思いますが、下記の通り意見書を提出させていただきます。</p> <p>P5-7 ウェルビーイングについて</p> <p>市内にある民間企業に対し、出前講習への協賛を依頼し、幼稚園～高等学校の生徒向けに各園・学校にて定期開催してはどうでしょうか？基本的に報酬はなしでよいかと思いますが、何かしらのインセンティブは必要かも知れませんが、また、リスクニングとして、成人向けの講習もあれば、なお地域密着型を形成でき、市の目指すウェルビーイングの循環に寄与するかと思います。</p> <p>P12 施策①人員体制の強化について</p> <p>「市独自の人材バンクを設立」というところにすごく惹かれました。令和5年4月1日付けの「町丁字別世帯数及び男女別、年齢（3区分）別人口」によりますと、65歳以上の市民は26,232人おり、各業界で活躍されてきた諸先輩方が多数いるはず。先ずはこの方たちの中から賛同いただける方々に登録いただいてはいかがでしょうか？そのうえで、民間の力を借りることもありかと。基本的には市民で回していくということが望ましいと思います。</p> <p>また、人材バンクへ登録し、実際に業務された方には、報酬の支払い、または何らかのインセンティブが必要かと思えます。</p> <p>P14⑩学習評価や成績処理について</p> <p>どのようなITツールを生徒へ配布しているのかわかりませんが、主要科目はペーパーによるテストを取り止め、ITツールによるペーパーレス化へシフトすべきかと思えます。これにより採点の自動化、または省力化が期待でき、成績の分析や傾向をつかむことが容易になります。また、データの蓄積も同時に行えます。</p> <p>ここからは資料になかった内容になるかと思いますが、いち市民として意見を述べさせていただきます。</p>	<p>「ウェルビーイング」について 意見の取り扱い【参考】</p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p> <p>民間企業を含めた地域と学校との連携につきまして検討してまいります。</p> <p>「施策①人員体制の強化」について 意見の取り扱い【参考】</p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p> <p>市独自の人材バンクについては、いただいたご意見も踏まえて、幅広い市民の皆様に登録をいただくよう努力してまいります。</p> <p>「学習評価や成績処理」について 意見の取り扱い【参考】</p> <p>ご意見として承ります。本ビジョンへの記載は致しませんが、取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p> <p>教育現場におけるペーパーレス化の可能性につきましては、より効率的で効果的な教育を実現できるよう、環境の改善に努めてまいります。</p>
-----------	---	---

	<p>市長選の際に目にしたマニフェストに、インターナショナルスクールに関する記載があったように記憶しています。どうせ誘致するならケンブリッジ大学へ進学できるような有名校を切望します。</p> <p>また、ご存じかと思いますが、広島県にある県立中高一貫校「広島叡智学園」はほとんどの授業を英語で行う全寮制の学校で、昨春に述べ105名の生徒が海外の大学に合格したというニュースを目にしました。こういうインパクトのある公立校が市内にあると印西市に住みたい、と思える動機づけになるのではないのでしょうか？</p> <p>釈迦に説法ではありますが、資料に記載がなかったように思いますのであえて言語化させていただきますと、「印西市教育ビジョン(案)2026-2030」の先にあるものは、多種・多様な選択肢のある教育環境で育った子供たちが、専門学校・大学・大学院を卒業後、就職や転職、または結婚を機に印西市で家庭を築きたい、子育てをしたいと思ってもらえる仕組みづくりかと思えます。(母川回帰)</p> <p>ぜひ日本、いや世界のモデルとなるような市づくりに、市長ほか、市議会議員や市役所に勤務する職員一同が尽力する背中を市民へ見せていただき、スピード感をもってひとつひとつ実現していただけますことを祈念します。</p> <p>追伸</p> <p>マニフェストの達成度合いを市のホームページにダッシュボードとして掲載してはいかがでしょうか？</p>	<p>「市長マニフェスト」について</p> <p>意見の取り扱い【その他】</p> <p>ご意見ありがとうございます。インターナショナルスクール誘致や若者の地域回帰等の考えに基づく魅力あるまちづくりにつきましては、印西市第2次基本計画に位置づけ、検討を進めてまいりますことから、趣旨は関係部局と共有させていただきます。</p>
28	<p>貴教育ビジョン案に関して、以下の通り、当方の意見及び質問を具申致しますのでご検討下さい。</p> <p>1.若者の心をまとめ、幼子に郷土への愛着を増させるとあるが、現状は地元愛のある学生でも中学高校大学選択の際、市外へ流出してしまっており、発想としては面白いが机上の空論となっていないか。</p> <p>2.ビジョン案を進めるうえでのインナーブランディングやインセンティブ付与の計画はあるのか？</p>	<p>意見の取り扱い【その他】</p> <p>いただいたご質問につきましては、本ビジョンに対するご意見として受け止め、教育ビジョンの実現に向け取り組んでまいります。</p>

3.現在の教員数で IT 利用を進めて行けば教育人材は揃っていくと言えるのか?又どうやって補助人材を集めるのか?

人材バンク（小生から提案済みの「印西人材バンク」）構想のその後の具体的進行具合はいかがか?

小生は現在東京と地方の2大学の経営学（データドリブン経営や起業家育成）と都立高校・中学2校の「探究学」指導を行っているが、このような社会人経験者（内外の上場企業等経営者）を地元の教育委員に迎え入れ、現代社会のニーズに応える計画方法を検討しているのか?

4.生徒の個性能力を鍛え、それを助ける多面的評価を検討するとあるが、どうやって行うのか? 評価基準は?

5.STEAM(science.technology.engineering.art.mathematics)を統合的検討し、個々の生徒が探究出来る学びを推進するとあるが、重要度に応じた配分になっているか? 単なる流行の IT 技術習得では時代のニーズにそぐわないと考えないのか?

6.教育関連で老人雇用は意識的に計画しているか? 外人の地元雇用は上手くできているのか? データはあるのか? 有能な労働人口が市外に漏出していないか? 外国企業（例：データセンター誘致）に向けて必要なリスクリングシステム(現代の日本又は地域経済に必要な教育の仕組み)は地元で構築出来ているか? その手段は?

7.各施策の指標は何にするのか?学習評価も同じ。その効果測定方法はどうするのか?

8.実現に向けたロードマップを作るとあるが、予算（資金）余力はあるのか?統計的な補強データはあるのか?

以上に関して定期的・具体的な打ち合わせをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか?印西市所在の外国人経営者の方々と交えた討論も可能だと思いますが、いかがでしょうか?